

●夏原グラント 2019 年度活動交付金贈呈式

20 日草津市のエストピアホテルで実施 参加大村、有田氏。夏原グラントは主に環境関係の活動に助成金が支給されるので、里山の会は木津川での魚とりなどへの申請を続けてきましたが、数回落選しました。やっと里山農園と周辺の山間での取り組みとして、ナラ枯れ木の伐採を通じて里山農園の安全度アップで初年度の助成金交付を受けて、薪割り機の購入が実現しました。

続いて18年度にも20万円の交付決定をいただき教育棟の掲示板の設置と白土山へのルート設置が完成できました。2019 年度にも 50 万円の助成金額を申請しましたが、20 万円に減額されて決定しました。贈呈式ではモデル団体の活動発表が行われ、加茂町の発表が印象的でした。

●木津川のイタセンバラ復活についての助言を受ける

大阪工業大学綾史郎先生を訪問 太田、山村 21 日。山城大橋の建設が始まるころ木津川堤防に巨大な看板が設置されて、天然記念物のイタセンバラの存在が大きく宣伝されました。しばらくして看板は撤去されましたが、イタセンバラの絶滅が話題になりました。天然記念物の生息が大きく報道されたからだと思います。研究者で有名な小川力也さんがイタセンバラノ生態研究をされていたワンドがその池だったのです。2000 年過ぎにイタセンバラの全滅が宣言され、淀川水系に自然の中で生息するものがなくなったのです。里山の会が活動を始めた直前のことでした。それ以後、木津川におけるイタセンバラ復活を主張してきましたが、淀川下流域での放流が行われ、復活が確認されました。わたしたちは最後まで生育していた場所での復活を望んでいましたが、一向に国交省の腰が重くて動きになりませんでした、今回里山の会に参加していただくことになった太田敏之さんが関心を持っていたので、トヨタ資金を申請するにあたって、綾先生のご指導をいただきに伺いました。木津川でもそうですが生息環境（人 もの かね）が課題だと指摘がありました。特に盗捕防止対策への大きな課題だとも指摘を受けました。トヨタの交付申請期日は 6 月初旬なので、再度お伺いを約束して帰宅しました。綾先生から木津川などで活躍中の竹門先生は川の状況でワンドなどについては最もよくご存じだよとの助言もいただきました。早急にお尋ねすることにしました。天然記念物の復活にご関心をお持ちの方と一緒に取り組みませんか。ご連絡をお待ちしています。

●18 日 次年度の役員体制などについて

理事継続表明者による打ち合わせ会議を 11 日 18 日と 2 回開催しましたが、4 名の出席でした。この状況では継承は無理だろうとの結論に落ち着きました。

さて、2018 年度は中聖牛の設置や木津川希少植物の 36 ヲ所の生育地調査と 15,000 m²に及ぶ除草作業による希少種の管理業務の実施、中聖牛 3 基の設置、夏原グラントによる洞穴探検ルートの開削と教育棟に掲示板の設置が完成しました。相次いでプロジェクトが完成しました。中西康太君による日本生態学会での発表も立派に終了できました。近年、稀に見る大躍進の年でありました。そして今年 2019 年は結成 25 周年記念を前にした年です。この時、理事長の辞退を播川様が表明され、理事諸氏に大きな迷いが走りました。これに引き続き数名の理事退任表明者が続きました。特に 4 月 27 日の総会を前にして、緊急対策会議継続の意思者にも影響が響き、実務的な作業の実施者が見つからず、このままだと幕を引くことになるのではないかと大変危惧されています。高齢化による意欲と体力の後退はやむを得ないものですが、今ここが一番苦しいときで、ここが、頑張りどころなのです。若手の引き継ぎ手がいいるのではなく加わってきるときまさに上向き加減が見えてきたとき、ここで手を引くわけにはいかない情勢です。まさにバトンタッチゾーンでの手渡しに成功できるかどうかという瀬戸際にいるのです。

●20 日里山の会の会計監査を受ける

11 時より 1 時間 武田稔氏への報告を行う 報告説明者は深田三郎さんでした。先にお知らせしましたように。ほとんどの多様な交付事業は後払い制度なので、年度末の事業報告が大切で連続します。最後に提出するのが京都府地域力再生プロジェクト事業なのです。里山の会は毎年申請を行い、事業総額 300 万円

の申請をしています。山城広域振興局のご援助やご指導を受けて報告が期日に提出できました。そして書類審査の結果交付金額の決定通知が届きました。満額となればいいのですが、審査精査がさらに厳しくなり多少の減額が発生しています。それでも報告金額の95%の交付決定となりました。次年度は更に厳しい査定が予想されていますとのコメントも添付いただきました。

●京都大学1回生高田喜光君が事務所を訪問

19才の若者が事務所を訪ねてこられました。東京の出身で京都に来て10日目だということでした。インターネットでの検索で里山の会を見つけておいでになったそうです。里山の会の説明と活動の紹介をしました。約一時間話しあいました。早速、木津川を歩いてくるとのことです。翌日には小林慧人君と電話がつながって、食事を共にされ、友好を深めてくれました。学生レンジャーにも意欲満々です。小林君から報告が届きました。いい仲間が一人増えました。暖かい歓迎をしましょう。

●今年度最終理事会の開催をお知らせします

4月27日(土) 10時より 里山の会事務所で 次年度活動について最終確認等を議論します。これまで理事の任期切れの場合、理事選出もさることながら、新しい世話役の選出にかなり手間取っています。今回は特別な流れから困難を極めております。特に大きな節目である25周年記念事業の前年と同時に京都大学との共同事業や木津川植生調査業務による見通しが原因のように見えます。しかし業務や作業内容は、18年度に完全に実行済みのもので、新規事業ではありません。新年度の初事業ではなく経験を積み重ねてきているものです。

問題は「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」のスローガンの実現への情熱と熱意を燃やし続けられるかということに尽きるのではないのでしょうか。

●次年度の活動方針案の6項目についてお知らせします

総会で決議されますと順次掲載します。

1:25周年記念事業の決定とその準備 2:第3次中聖牛(3基)の設置 3:活動プランの決定を3ヶ月前に 4:助成金申請について 5:余剰金の積み立て金の設立 6:「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」取組みの具体化について、となっています。最終理事会に提案の予定。内容の変更は発生しません。

●会誌46号にご期待ください

これまでにない素晴らしい調査研究報告に応募いただきました。特に第一原稿は、巨椋池についての大池漁業由緒書きは昭和11年1月に大滝新之助先生が執筆されたもので、これまで読みくじけできなかったものを太田敏之さんに口語文に直していただいたものです。山城地域の大変革。巨椋池については一読の価値は十分あるものです。ご期待ください。また第2講の白土山については、京田辺市の普賢寺地域における舟運の果たしてきた役割とその時代、そして運送業の変化等興味深いものとなっています。またカスミサンショウウオ(ヤマトサンショウウオ)の生息池周辺での取組を一読ください。京田辺市の環境がいかに大切なものであるかが、ご理解いただけるものです。熱心な研究成果を寄せていただきましてありがとうございます。

●里山の会が活動を始め以来見られなくなったものを列挙しておきます

落丁しているものや失念しているものがあり、完璧な資料ではありませんが、お気づきのことがあればご連絡ください。

イタセンパラ オオウラギンヒョウモン ウメバチソウ シャジクモ イヌセンブリ サギソウ ツリフネソウ コナラ林の現象 シロワレモコウ トキワススキ シライトソウ タコノアシ、
レンリソウ(第1発見場所) コヒロハハナヤスリ ツルフジバカマ
(増えているものとしてクロコノマチョウ、イシガケチョウがあります)